令和元年度の児童相談所における児童虐待相談対応件数(速報値)の詳細

①虐待相談の経路別(主なもの)

警察からの相談対応件数の割合が依然として約4割の高い割合を占めた。

	平成30年度(構成割合)	令和元年度(構成割合)	増減 <r元年度-h30年度>(増減率)</r元年度-h30年度>
家族	66 (8.9%)	45 (6. 3%)	-21(-31.8%)
近隣・知人	24 (3. 2%)	36 (5. 1%)	+12(2 +50.0%)
警察等	300 (40. 4%)	254 (35.8%)	-46 (-15.3%)
学校等	171 (23.0%)	175 (24. 7%)	+ 4(+2.3%)
その他	181 (24. 4%)	199 (28. 1%)	+18 (+9.9%)
合計	742 (100. 0%)	709 (100. 0%)	-33 (-4. 4%)

②主な虐待者別

2年連続で、実母が実父の割合を上回った。

	平成 30 年度(構成割合)	令和元年度(構成割合)	増減〈R 元年度-H30 年度〉(増減率)
実父	309 (41.6%)	279 (39. 4%)	-30 (-9. 7%)
実母	345 (46.5%)	341 (48. 1%)	- 4(-1.2%)
その他	88 (11.9%)	89 (12.6%)	+ 1 (+1.1%)
合計	742 (100. 0%)	709 (100. 0%)	-33 (-4.4%)

③虐待の種類別

前年度に引き続き、心理的虐待の割合が約5割を占めた。

	平成 30 年度(構成割合)	令和元年度(構成割合)	増減〈R 元年度-H30 年度〉(増減率)
身体的虐待	239 (32. 2%)	215 (30. 3%)	-24(-10.0%)
ネグレクト	129 (17. 4%)	135 (19.0%)	+ 6 (+4.7%)
性的虐待	3 (0.4%)	11 (1.6%)	+ 8 (+266. 7%)
心理的虐待	371 (50.0%)	348 (49.1%)	-23 (-6.2%)
合計	742 (100. 0%)	709 (100. 0%)	-33 (-4.4%)

④被虐待者の年齢別

前年度に引き続き、小学生の割合が最多となった。

	平成 30 年度(構成割合)	令和元年度(構成割合)	増減〈R 元年度-H30 年度〉(増減率)
0~3 歳未満	103 (13. 9%)	101 (14. 2%)	-2(-1.8%)
3~学齢前	183 (24. 7%)	158 (22.3%)	-25 (-13. 7%)
小学生	288 (38.8%)	281 (39.6%)	-7 (-2.4%)
中学生	111 (15.0%)	107 (15. 1%)	-4(-3.6%)
高校生・その他	57 (7.7%)	62 (8.7%)	+5 (+8.8%)
合計	742 (100. 0%)	709 (100. 0%)	-33 (-4. 4%)

⑤児童相談所別

6児相のうち4児相で、相談対応件数が前年度より減少。

	平成 30 年度(構成割合)	令和元年度(構成割合)	増減 <r 元年度-h30="" 年度="">(増減率)</r>
中央児相	182 (24.5%)	159 (22.4%)	-23(-12.6%)
岩国児相	115 (15.5%)	152 (21.4%)	+37 (+32. 2%)
周南児相	146 (19. 7%)	126 (17.8%)	-20(-13.7%)
宇部児相	164 (22. 1%)	140 (19. 7%)	-24(-14.6%)
下関児相	101 (13.6%)	81 (11.4%)	-20(-19.8%)
萩児相	34 (4.6%)	51 (7.2%)	+17 (+50.0%)
合計	742 (100. 0%)	709 (100. 0%)	-33 (-4.4%)